

これからのジャニーズアイドル像 —嵐と嵐ファンの関係性から探る—

田中 瞳子

(岡本 裕介ゼミ)

アイドルは歌や演技、言葉を通して人々に夢や希望を与える存在だ。アイドルのファンは彼らを応援し、彼らの活躍や成長を自分のことのように喜ぶ。そして、それがファンの元気や活力につながる。これまでアイドルは主にテレビ番組、コンサート、舞台で活動してきた。アイドルはファンにとって手の届かない憧れの対象だった。しかし、近年アイドルはファンにとって身近な存在に変わってきた。男性アイドルも親しみの持てる普通の男の子が高い人気を得ている。

現在、男性アイドルと言えば、一番にジャニーズが思い浮かぶ。1962年にジャニー喜多川氏が設立したジャニーズ事務所には、多くの人気男性アイドルが所属している。その中でもトップに位置するのが国民的アイドルの嵐だ。2019年1月の嵐の活動休止発表は嵐ファンだけでなく日本中に衝撃を与えた。ポスト嵐を狙う新しいグループも次々にデビューしているが、まだまだ嵐の人気には及ばない。

この論文は、アイドルグループ嵐の活動を通してジャニーズアイドルとファンの関係を考えるものだ。第1章では、嵐のデビューから活動休止までを振り返る。第2章では、嵐以前のジャニーズアイドルとファンの関係、嵐以降のジャニーズアイドルとファンの関係について考える。第3章では、メンバー同士や先輩後輩などが仲よくしている様子を表すいわゆる「わちゃわちゃ感」に着目する。この言葉を手掛かりにファンがジャニーズアイドルに求めるものについて考える。第4章では、近年デビューしたジャニーズグループと嵐を比較しながらこれからのジャニーズアイドル像を考える。

第1章 嵐の歴史

嵐は大野智、櫻井翔、相葉雅紀、二宮和也、松

本潤の5人からなるジャニーズ事務所所属のアイドルグループだ。

嵐は1999年9月15日デビューした。デビューのお披露目会見はハワイのクルーズ船の上で行なわれ、この年の11月3日デビュー曲である「A・RA・SHI」を発売した。派手にデビューした嵐だったが、初期の頃はライブ会場が満席にならずライブチケットがタダで配られたこともあった。冠番組の「真夜中の嵐」（日本テレビ 2001～2002）「Cの嵐」（日本テレビ 2003年～2005年）では、過酷な企画にも体当たりでチャレンジした。

嵐の転機になったのは、ドラマ「花より男子」（TBS 2005年）だ。メンバーの松本潤が道明寺司役を演じドラマは大ヒットした。その後「花より男子2（リターンズ）」（TBS 2007年）、映画「花より男子F（ファイナル）」（2008年）も制作された。嵐が担当した主題歌「WISH」（2005年）、「Love so sweet」（2007年）、「One Love」（2008年）もドラマや映画と同じく大ヒットし、国民的アイドルへの道を歩み始めた。2008年には初の5大ドームツアー「ARASHI Marks 2008 Dream-A-Live」を開催した。この後、5大ドームツアーは休業に入るまで11回、国立競技場でのコンサートは6年連続行われた。2009年には「NHK 紅白歌合戦」に初出場し、2010年からは5回連続グループで司会を務めている。冠番組は深夜の時間帯であったのがゴールデンタイムに進出していく。「ひみつの嵐ちゃん!」（TBS 2008年～2013年）、「VS嵐」（フジテレビ 2008年～2020年）、「嵐にしやがれ」（日本テレビ 2010年～2020年）では5人それぞれが素の魅力を発揮し多くのファンを獲得することにつながった。また、日本テレビの24時間テレビ「愛は地球を救う」のメインパーソナリティを合計5回担当している。2011年東日本大震災が起こったことをきっかけに、「嵐のワクワク学校」というチャリティイベントを2019年まで9回

これからのジャニーズアイドル像—嵐と嵐ファンの関係性から探る—

開催している。(2020年にもオンラインであるが開催されている)「嵐のワクワク学校」は、5人がそれぞれテーマを設定し会場のファンと一緒に勉強するもので収益金の一部が寄付されている。

嵐は5人それぞれが個人でも活躍している。全員がドラマや映画で主役を務められるほど俳優としての人気も高い。特に二宮和也はクリント・イストウッド監督の「硫黄島からの手紙」(2006年)や山田洋二監督の「母と暮らせば」(2015年)に出演し日本アカデミー賞最優秀主演男優賞を受賞している。松本潤も先に述べたように「花より男子」シリーズや「99.9-刑事専門弁護士-」(TBS 2016年、2018年)など人気ドラマに主演している。また、嵐のコンサートの演出を手掛けていることも有名だ。相葉雅紀はバラエティ番組での活躍が目立ち「天才!志村どうぶつ園」(日本テレビ 2004年~2020年)や「相葉マナブ」(テレビ朝日 2013年~)では人柄の良さが感じられる。櫻井翔はジャニーズで初めて歌にラップを取り入れた。また、多くのバラエティ番組や歌番組でMCを務め、news zero(日本テレビ 2006年~)ではキャス

ターを務めている。大野智は絵やフィギュア作品の制作に才能を発揮しており、日本だけでなく海外でも展覧会を開催している。令和元年11月9日天皇陛下の即位をお祝いする式典で、嵐は奉祝曲を披露した。この大役に選ばれたのは嵐が幅広い年齢層の人から支持される、日本を代表するアーティストだからだ。

表1(『日経エンタテインメント!』2019年12月15日)は、2019年に開催されたコンサートからアーティスト別に「年間動員力」をランキングにしたものだ。嵐は、2018年11月から約1年かけて「ARASHI Anniversary Tour 5×20」を行った。このツアーは休業に入る前にファンに感謝を伝えるため、当時のファンクラブ会員全員が参加できるよう51公演(約255万人動員)開催された。表2(『ORICON NEWS』2019年12月23日)は、2019年の音楽ソフト(シングル・アルバム・音楽DVD & Blu-ray Disc・デジタルシングル・デジタルアルバム・ストリーミング)の総売上金額のアーティスト別ランキングだ。嵐は200億円以上を売り上げ、2位以下のアーティストに

表1 コンサート動員力ランキング

順位	アーティスト	動員力 (万人)
1	嵐	181.8
2	三代目 J SOUL BROTHERS from EXILE TRIBE	111.9
3	AAA	73.0
4	サザンオールスターズ	65.9
5	Kis-My-Ft2	61.7
6	乃木坂 46	60.7
7	関ジャニ∞	59.3

出典：『日経エンタテインメント!』 2019年12月15日
(<https://style.nikkei.com/article/DGXMZO52911370 T01 C19 A2000000/>)

表2 年間アーティスト別セールスランキング

順位	アーティスト	売上 (100万円)
1	嵐	20.332
2	乃木坂 46	8.214
3	King & Prince	5.874
4	TWICE	5.196
5	BTS	5.185

出典：『ORICON NEWS』 2019年12月23日
(<https://www.oricon.co.jp/confidence/special/54091/23/>)

大きく差をつけて1位を獲得している。これらのデータからも嵐がいかに多くの人から支持されていたのかがよくわかる。

第2章 ジャニーズアイドルとファンの関係

1. 「普通の男の子」というアイドル像

ジャニーズ事務所は、ジャニー喜多川氏が1962年に創業し多くの男性アイドルを育てた芸能事務所である。初期のジャニーズアイドルでは、1968年デビューのフォーリーブスや1972年デビューの郷ひろみが有名だ。彼らは女の子たちが憧れるカッコイイ王子様として人気だった。1980年代は、たのきんトリオが爆発的な人気を得た。たのきんトリオとは田原俊彦、近藤真彦、野村義男のことだ。3人とも1977年に放送された「3年B組金八先生」という学園ドラマに生徒役で出演し、人気が出た後それぞれ歌手デビューした。太田省一は、たのきんトリオについて「それまでのジャニーズの「王子様の」アイドルとは異なり、彼らはファンにとってより身近だと感じる存在だった」（太田2021：90）と述べている。彼らは「3年B組金八先生」の中で色々なことで悩み成長する「普通の男の子」を演じ、ファンは自分たちと近いものを感じた。1991年には嵐の前に国民的アイドルであったSMAPがデビューした。太田は「「普通の男の子」という第二の道を、SMAPは大きく発展させた」と述べている（太田2021：129）。SMAPは歌手、ドラマ、バラエティとメンバー全員が様々な分野で活躍した。中でもSMAPの冠バラエティ番組「SMAP×SMAP」は、高い視聴率をとり彼らが解散するまで20年間続いた。ファンはバラエティ番組で普段見られないアイドルの本当の人柄や人間性を見ることができた。そして、さらに彼らに親しみを持つのだ。太田は「素を見せることは、当然「普通の男の子」としての魅力を増すことに通じる」と指摘している（太田2021：130）。SMAPの後にデビューしたTOKIO（1994年デビューの5人組アイドル）、V6（1995年デビューの6人組アイドル）、嵐も冠バラエティ番組が成功し幅広い年代の支持を得た。たのきんトリオで始まった「普通の男の子」というアイドル像がSMAPで発展し嵐へ引き継がれたと考えられる。

2. ジャニーズアイドルの関係性を楽しむファン

男性アイドルは、ファンにとってあこがれの存在、理想の恋愛対象だった。しかし嵐のファンは嵐を好きな理由に、まず「5人の仲がいいところ」をあげる。辻泉はアイドルのファン文化が「2.5次元の疑似恋愛関係の「当事者」から、アイドル同士の関係性の「観察者」に遷り変わった」と述べている（辻2012：28）。ファンが自分対アイドルではなく、好きなアイドルと他のメンバーとの関係を観察して楽しむようになんて変わったということだ。ファンは嵐5人の仲の良い様子を観察して楽しむが、それ以外にも独自に2人組、3人組の名前を付けて楽しんでいる。例えば、じいまご（一番年上の大野智と一番年下の松本潤）、翔潤（櫻井翔と松本潤の気まずいコンビ）、大宮SK（大野智と二宮和也でユニットを組んで歌っている）などがそれである。辻は嵐とファンの関係性を「同じクラスの中で、数名の男子がじゃれ合っている様子を、これまた数名の女子が噂をしながら眺めているような関係性」と説明している（辻2012：30）。1対1の関係性よりも複数の友人と同じ対象を観察して楽しんでいると言える。このような「観察者化」が進んだ原因として、辻は「3次元のリアル世界であれ、2.5次元や2次元であれ、そこにリジットに向き合い、熱狂するほどの価値が置かれなくなりつつあるから」と述べている（辻2012：32）。若者のコミュニケーションのとり方が変化し、深い関わりを持つことを避けるようになったためだと考えられる。当事者になって何かに夢中になったりのめりこんだりすると問題が生じる可能性が高くなる。できるだけ円滑にコミュニケーションを続けるために、観察者の立場でいるのが気持ちの面で楽なのだと考えられる。

3. アイドルは友情・絆をアピールする

ジャニーズアイドルは自分たちの関係性をファンに見せる時、仲の良さや絆をアピールする。西条昇・木内英太・植田康孝は「ジャニーズアイドルは「わちゃわちゃ感」と呼ばれる男性同士の親密さや絆をアピールして、男性に付随する女性の存在を無化する「偶像」になることに成功している」と述べている（西条・木内・植田2015：207）。男性アイドルにとって恋愛などの女性との噂は大

きなダメージになる。男性アイドルが仲の良さや友情をアピールすると、ファンは女性を意識する必要がないと考え安心する。そして、ファンが考える理想のアイドルであり続けることができる。

本章の1. で述べたように、ジャニーズアイドルは「普通の男の子」というアイドル像が主流になってきた。かっこいい憧れの存在という要素はありながらも身近にいなような男の子がアイドルになったことで、幅広いタイプのアイドルが生まれた。西条・木内・植田は「女性ファンにとっては男性アイドルが手の届かない遠い「偶像」ではなく、現実空間にいる「キャラクター」として認識されるようになってきている」と述べている（西条・木内・植田 2015: 207）。アイドル像が多様化したため王子様のようなイケメンにばかり人気が集まることはなくなった。ファンは身近な男の子を見るような感覚でアイドルの人間性や頑張っている姿、他のメンバーとの関係性を観察し、それが応援しようという気持ちにつながっている。嵐はファンから「メンバーの仲がいい」、「5人でわちゃわちゃ楽しそうにしているところが好き」と言われている。嵐以前のジャニーズアイドルは、メンバーの仲の良さや先輩後輩との交流、プライベートなどはそれほどアピールしてこなかった。嵐以降はメンバー同士、あるいは他グループとの交流、家族のことなど、プライベートなエピソードもよく話題にする。そこには女性の存在は全くないのでファンは安心して彼らの関係性を観察し、色々想像を膨らませ純粋に楽しむことができる。

4. ジャニーズ Jr. のシステム

ジャニーズ・ファンがアイドルの関係性を楽しむ観察者になってきた理由には、ジャニーズ Jr. のシステムが影響していると考えられる。陳怡禎は「女性ファン達がジャニーズ・アイドルの関係性を消費する際に、重要な働きをしている歴史的蓄積の感覚は、実際、「長年一緒にいる」特定のグループのアイドルメンバー同士の関係性に限定されるのではなく、ジャニーズ事務所全体に向けられている」と述べている（陳 2014: 167）。ジャニーズ Jr. とはジャニーズ事務所に入所した CD デビュー前の少年たちのことである。現在は 300 人以上の少年たちが所属している。ジャニーズ

Jr. は、踊りのレッスンを受けたり先輩の歌番組やコンサートのバックで踊ったりする。また、ジャニーズ Jr. の中でも既にグループが何組も存在し、単独でコンサートを行えるほど人気がある。彼らをメインにした番組（BS プレミアム「ザ少年倶楽部」2000 年～）もありバラエティ番組やドラマ、映画への出演などデビュー前であっても活躍の場は多い。

過去にも現在以上にジャニーズ Jr. が活躍し黄金期と呼ばれた時期があった。1990 年代中頃から 2000 年代初めのことだ。彼らは地上波全国放送のゴールデンタイムに「8 時だ J」という冠番組を持ち、コンサートやドラマ、バラエティ番組で大活躍した。この時 100 人以上のジャニーズ Jr. のリーダーを務めていたのが、ジャニーズ事務所副社長だった滝沢秀明だ（2022 年 10 月退社）。他にも嵐としてデビューした大野智、櫻井翔、相葉雅紀、二宮和也、松本潤、関ジャニ∞としてデビューした横山裕、村上信五、渋谷すばる、丸山隆平、安田章大、錦戸亮、滝沢秀明とタッキー&翼でデビューした今井翼、俳優として活動している風間俊介、生田斗真、山下智久など、今もトップで活躍する豪華なメンバーがそろっていた。ジャニーズ Jr. の少年たちはデビュー前の時期を一緒に過ごし競い合って成長し、それぞれグループを組んでメジャーデビューしていった。そこにはグループの関係性以外に先輩後輩、同期といった関係性が存在する。ライバルだが、お互いに応援し合える友情があるだろうとファンは想像する。ファンは自分が応援するジャニーズアイドルを中心に他のメンバー、他のグループにまで関係性を広げて観察し、それがジャニーズ全体に広がっていく。陳が「アイドル同士の関係性に「友情」というものを確認し、語ることによって、ファン達が、アイドルを媒介に「友情」に高い価値を与えている」（陳 2014: 169）と指摘しているように、ファンはジャニーズアイドルの関係性に友情があることを望んでいると考えられる。

第3章 わちゃわちゃ感とは何か

1. 嵐のわちゃわちゃ感

これまで何度か登場した「わちゃわちゃ感」と

いう言葉に着目する。わちゃわちゃは数人で、やかましくしゃべる様子を表す大阪弁だ。そこからアイドルたちが楽しそうにじゃれ合ったり仲良くしたりしている様子を「わちゃわちゃ感」と呼ぶようになった。西条昇・木内英・植田康孝は嵐について「一人だけ抜きん出た美貌とスター性を持つメンバーが存在していないことが特徴である。逆にそれが女性ファンの心をとらえ、「最初は〇〇だけ好きだったけど、結局5人でわちゃわちゃしているのが一番いい」、「嵐は家族のように仲良く、わちゃわちゃした5人が最高」と言わせる原因となっている」と述べている（西条・木内・植田2015：207）。ファンはそれぞれに推し（特に応援していること）のメンバーがいるが、同時に他のメンバーと楽しそうにしている推しメン（推しのメンバー）を見て喜びを感じ、結局は嵐全体を好きになるのだ。これに対して西条・木内・植田はSMAPについて「嵐に比較して、SMAPは「わちゃわちゃ感」がないと指摘される。メンバー間に緊張感が存在していることをファンは感じている」と述べている（西条・木内・植田2015：208）。同じ国民的アイドルだが、ファンが感じていたグループの雰囲気は違っていた。嵐には家族のようなリラックスした仲の良さ、SMAPには互いに一定の距離を持った緊張感があった。

ここで嵐のわちゃわちゃ感について具体的に例をあげる。嵐の冠番組「嵐にしやがれ」（日本テレビ2010年～2020年）の中に「グルメスマッチ」というコーナーがあった。これはクイズ形式になっていて、正解するとご褒美として問題ごとに紹介された料理を食べられるというルールだ。嵐は毎回お互いに料理を交換し、感想を言い合いながら食べている。その様子を見てファンは、嵐はいつもこんな風に仲良く食事をしているのだろうと想像する。毎年お正月には「嵐ツボ」（フジテレビ2016年～2020年）という番組が放送されていた。この番組の中に、楽屋や移動の車の中での様子、マネージャーからの苦情などをテーマに5人が和気あいあいとトークをするコーナーがあった。自宅のリビングで話しているような雰囲気に、ファンは嵐のプライベートを見ている気持ちになる。このようなわちゃわちゃ感から、ファンは嵐5人である時のメンバーが一番楽しいのだと考える。そ

して、そういうメンバーを見てファンも安心感や幸福感を享受できるのだ。

2. 嵐の関係性

嵐の一番の魅力は「わちゃわちゃ感」に表れる仲の良さだ。この仲の良さをファンが感じるの、彼らの関係性によるものだ。辻は嵐について「嵐でよく言われるのは「センター」がはっきりしないということである」と述べている（辻2012：30）。センターとは、アイドルが歌を歌う時、グループの中で一番目立つ真ん中に立つことだ。特にAKBグループで有名になった言葉で、彼女たちはセンターの座をかけてファン投票で1位になるために頑張っていた。ジャニーズでも、SMAPの木村拓哉やNEWSの山下智久のように絶対的に人気があるセンターが存在するグループが多い。センターは重要なパートを歌うことが多く、衣装がほかのメンバーより華やかでテレビに映る時間も長い。CDのジャケット写真や雑誌に掲載される写真でも、センターを務めるメンバーが真ん中に立つことが多い。しかし嵐は曲ごとにセンターが入れ替わるので、誰かが特に目立つということはない。表3は嵐のシングル曲とその曲のセンターを表にしたものである。大野智9曲、櫻井翔9曲、相葉雅紀9曲、二宮和也8曲、松本潤10曲でメンバー5人がほぼ均等にセンターを務めているのが分かる。嵐の人気のきっかけは松本潤出演のドラマ「花より男子」（TBS2005年）だった。その後の「花より男子2（リターンズ）」（TBS2007年）や映画「花より男子F（ファイナル）」（2008年）の大ヒットで、まず松本潤の人气が一気に高まった。これにより嵐が担当した主題歌も大ヒットし、嵐自体の認知度が上がった。最初は松本潤の人气が先行していたが徐々に他の4人の人気も上がりはじめた。2008年頃からは5人全員がドラマや映画の主演を務めるようになり、その主題歌では主演のメンバーがセンターを担当することが通例になった。このように5人の活躍の差がなくなっていったのだ。

第1章で述べたように、嵐は個人での活動も多い。大野智は芸術、櫻井翔は報道、相葉雅紀はバラエティ、二宮和也は映画、松本潤はコンサート演出と別々の分野で活躍している。ファンは、5

これからのジャニーズアイドル像一嵐と嵐ファンの関係性から探るー

表3 シングル曲のセンター

発売年月日	シングル曲タイトル	センター
2008年2月20日	Step and Go	大野智
2008年6月25日	One Love	二宮和也
2008年8月20日	Truth	大野智
2008年11月5日	Beautiful days	二宮和也
2009年3月4日	Believe	櫻井翔
2009年5月27日	明日の記憶	櫻井翔
2009年5月27日	Crazy Moon~ キミ・ハ・ムテキ~	松本 大野 二宮
2009年7月1日	Everything	松本潤
2009年11月11日	マイガール	相葉雅紀
2010年3月3日	Troublemaker	櫻井翔
2010年5月19日	Monster	大野智
2010年7月7日	To be free	松本潤
2010年9月8日	Love Rainbow	松本潤
2010年10月6日	Dear Snow	二宮和也
2010年11月10日	果てない空	二宮和也
2011年2月23日	Lotus	相葉雅紀
2011年10月19日	迷宮ラブソング	櫻井翔
2012年3月7日	ワイルドアットハート	松本潤
2012年5月9日	Face Down	大野智
2012年6月6日	Your Eyes	相葉雅紀
2013年3月6日	Calling	相葉雅紀
2013年3月6日	Breathless	二宮和也
2013年5月29日	Endless Game	櫻井翔
2014年2月12日	Bitter Sweet	松本潤
2014年4月30日	GUTS!	二宮和也
2014年5月28日	誰も知らない	大野智
2015年2月25日	Sakura	松本潤
2015年5月13日	青空に下、キミのとなり	相葉雅紀
2015年9月2日	愛を叫べ	二宮 大野
2016年2月24日	復活 LOVE	松本潤
2016年5月18日	I seek	大野智
2016年5月18日	Daylight	松本潤
2017年4月19日	I'll be there	相葉雅紀
2017年6月28日	つなぐ	大野智
2017年11月8日	Doors~ 勇気の軌跡 ~	櫻井翔
2018年2月21日	Find The Answer	松本潤
2018年7月25日	夏疾風	相葉雅紀
2018年10月24日	君のうた	相葉雅紀
2019年9月11日	BRAVE	櫻井翔
2020年7月29日	カイト	櫻井 相葉

(筆者がテレビ朝日「ミュージックステーション」を視聴して作成)

人がお互いの個性や才能を認め尊敬しあっているのだらうと想像する。ジャニーズ・ファンはコンサートに参加する時、ほとんどの人が推しの写真入りうちわを持参する。誰のうちわが多いかによって人気の差もわかる。1~2人に人気が集中するグループが多い中、嵐のコンサートでは5人のうちわの数に差がない。嵐のメンバー間には人気の面でも格差がない。二宮和也は2017年10月1日放送の「ニノさん」（日本テレビ2013年〜）の中で嵐の関係性について次のように語っている。

嵐は民主主義。AとBがありますってなった時にAの人が2人、Bの人が3人ってなったらこのAの人を選んだ2人も、そのBにもう乗っかるわけ。もうひとつであるのは1人がやりたくないって言ったものは絶対にやらない。そこはちょっと民主主義が崩れるんだけど、その人がやりたくないとかかわからないって言ったものは未だにやってない。

この言葉からも嵐の関係性が平等で一人一人の意見を大切にしていることがわかる。嵐のメンバーの間に力関係がなく、お互いの意志を尊重し合っていることを知り、ファンは推しのメンバー以外のメンバーに対して嫉妬心や不満を持たない。そして嵐の仲の良さが本物だと感じるのだ。

3. ファンは嵐の関係性に価値を見い出している

第3章の2で嵐の平等でお互いを尊重し合う関係性がわちゃわちゃ感に真実味を与えていると述べた。さらにデビューしてから20年という長い時間を一緒に過ごしてきた彼らには強い信頼関係があった。それは活動休止を5人で乗り越える中で表れていた。Netflixの「ARASHI's Diary -Voyage-」は、2018年9月5日から活動休止する2020年12月31日までの5人の様子を追っている。この中で松本潤はメンバーの存在について次のように語っている（「ARASHI's Diary -Voyage-」の「21. JUN's Diary」）。

2020年まで走りきろうって決めている自分たちだからこそ、横向いた時に「大丈夫」って顔を見合わせるとか「いくよ」ってやれる

感じが、同じ道を進もうとする仲間がいることが、ここまで心が折れずにとにかく馬力を落とさずにできている1つの理由かもね。

大野智は活動休止発表前の櫻井翔とのLINEのやりとりを明かしている（「ARASHI's Diary -Voyage-」の「16. OHNO's Diary」）。

俺が休止発表する当日、心配してくれて（櫻井翔が）「兄さん大丈夫？」ってきて「まあ言葉には詰まってしまうかもしれないけど、全部俺がフォローするから兄さん安心して会見に挑んでくれ」って。俺もう泣きそうなのわけよ。

櫻井翔は、活動休止を言い出した大野智が記者会見で理由を説明するためプレッシャーを感じているだろうと心配していた。活動休止の会見では、記者の質問に対して二宮和也が大野智をかばう場面もあった。記者の「大野さんが矢面に立つというか悪者にされる可能性もある」という発言に対し、二宮和也は「もしリーダー（大野智）が悪者に見えるのであればそれは我々の力不足です」と返している（福井2019:3）。これらのことから嵐がただ楽しくやっているだけの仲良しグループでないことがわかる。お互いを思いやり支え合う力強い存在になっている。ファンはわちゃわちゃ感に表れる仲の良さの奥に強い絆や友情を感じとり嵐の関係性に価値を見い出している。

第4章 これからのジャニーズアイドル像

1. 近年のデビューグループ

2018年5月にCDデビューしたのがKing & Princeだ。5人全員、歌や踊りのスキルが高くファンクラブ会員数も93万人と嵐に次いで多い。ポスト嵐の最有力と見られていたが2022年11月4日メンバーのうち平野紫耀、岸優太、神宮寺勇太のグループ脱退・退所が発表された。2020年1月にはSnowManとSixTONESの2つのグループが同時にデビューした。SnowManは9人グループでシンクロ性の高いダンスが人気だ。アニメオタク、気象予報士、美容男子などの個性的なメンバーが

これからのジャニーズアイドル像—嵐と嵐ファンとの関係性から探る—

そろっている。SixTONESは6人グループでジャニーズの中では珍しい不良っぽさが特徴になっている。SnowManもSixTONESもジャニーズJr.として活動した期間が長く、デビュー年齢は20代半ばから後半のメンバーが多く大人のグループの印象がある。これに対して2021年11月にデビューした、なにわ男子は可愛らしい少年っぽさが人気だ。彼らはジャニーズ事務所の中で関西を拠点にする関西ジャニーズJr.で結成された。これら4つのグループも嵐と同じように歌手活動の他にドラマ、映画、バラエティ番組など色々な分野で活動しながらファンを獲得していくという戦略をとっている。歌手活動ではジャニーズはライブに力を入れている。アイドル自身が演出などにも積極的にに関わり、自分たちらしいライブ作りをしている。グループの中で特に人気のあるメンバーは既にドラマや映画で主役を務めている。知名度がまだないメンバーは作品の2番手、3番手として出演し経験を積んでいる。先輩ジャニーズが主役を務める作品に出演することも多い。それぞれ冠バラエティ番組を持っているが放送は深夜時間帯だ。番組の評価やグループの人気次第でゴールデンタイムに進出できる。このような活動を続ける中でメンバーがジャニーズの枠を超えて俳優や司会者として認められるようになるとグループも一層成長する。また、ライブの合間のトークやバラエティ番組ではメンバーがプライベートのエピソードを披露したり、わちゃわちゃと仲の良い様子をアピールしたりしている。嵐の成功からメンバー同士の関係性やわちゃわちゃ感をファンが見たがっていると考えているからだ。わちゃわちゃ感はアイドルが人気を獲得するための大きな要因になっている。

2. これからのジャニーズアイドル像

ジャニーズアイドルを取り巻く環境は近年大きく変化している。人々のテレビ離れがすすみ、ジャニーズアイドルがドラマやバラエティ番組に出演しても簡単に視聴率はとれない。音楽はデジタル配信サービスが主流になりCD主流のジャニーズはこの流れに乗り遅れている。ジャニーズ以外のボーイズグループやK-POPと呼ばれる韓国アイドルグループの活躍で、男性アイドルをジャニー

ズが独占する状況ではなくなった。また、最近はSNSでの発信が重要になった。これからのアイドルはテレビ、舞台、SNSとこれまでよりさらに多くの場面での活動を求められている。アイドルのライブ配信サービスを運営するSHOWROOMのCEO前田は今後のアイドルについて次のように語っている（NHK、「クローズアップ現代」、2022年8月31日放送）。

ライブ配信やSNSなどインターネットによるサービス発達によって、ファンはアイドルにもっと近さを感じるようになった。近いことで親しみやすさを感じ、ファンは熱量を持っていくが、いいことばかりではなくて価値がうすまってブランドが消費されることもある。SNSの発信でファンとの距離は近づけるが、近づけるからこそパフォーマンスのクオリティをあげたり神格化を高めてファンの熱量をさらに高めなければならない。

ライブ配信、YouTube、ブログといったSNSの発信でファンはアイドルに親しみやすさを感じ、それが応援しようという気持ちにつながる。しかし、そこに片寄りすぎるとアイドルの価値がなくなってしまふ。SNSやバラエティ番組では素の部分や人間性で親しみやすさを見せ、逆にコンサートや舞台では質の高い歌やダンス、華やかな演出で夢の世界を見せる。現実的な面と非現実的な面をバランスよく使い分けなければならない。

ファンがジャニーズアイドルとの関係性を観察するようになったのは、ファンである女性たちの価値観が変化してきたためだ。恋愛、仕事、趣味などたくさんある楽しみのひとつとして彼女たちは推し活をしている。恋愛が人生で最も大切なものではなく、アイドルを恋愛対象として見なくなったと考えられる。このような変化にアイドルも対応する必要がある。ジャニーズアイドルは歌、ダンス、演技、バラエティと同時に色々なことをこなしている。どれもが中途半端になると徐々に存在感をなくしてしまう。アイドルの本来の仕事は歌とダンスだ。今までよりもさらにクオリティを高めていくためにも、歌とダンスに重点をおくべきかもしれない。また、ファンがアイド

ルの友情や絆に価値を見い出している点からメンバーの関係性をどのようにファンに発信するかも重要だ。ファンはメンバー同士の関係性を観察し、あれこれ想像して楽しむ。ファンを飽きさせない魅力的な関係性を常に発信することが必要だ。

おわりに

嵐が多くのファンに支持されたのは、ファンが当事者から観察者へ変化していった流れに嵐の関係性がうまくはまったためだ。観察の対象として嵐は、とても魅力的なグループだ。ファンは嵐のわちゃわちゃ感を見て幸せな気持ちになり、友情や絆を想像させるエピソードに感動する。5人が支え合って頑張っている姿を見て私も頑張ろうと思う。さらにジャニーズアイドルを観察者という立場で応援すると、何か問題が起こった時でもファンはいちいち動揺せずに冷静に受け止めることができる。これは現実の人間関係にも言える。自分のことのように一生懸命相手のことを思えば思うほど、うまくいかない時傷つくことになる。多くの人が人間関係を良くしたいと悩み、それがストレスになっている。そのため、現実でも深く人と関わることを避ける傾向があるのだと思う。観察者への変化は自分のメンタルを守るためだ。一方で、ファンはジャニーズアイドルにわちゃわちゃ感や友情、絆を求めている。現実には難しいがファンも本来は、そのような関係を望んでいるのだと思う。昔のアイドルはファンにとって遠い存在だったので、恋愛対象として見ていても現実とは別の作られたものと割り切ることができた。しかし、今のアイドルはどんどんファンと距離を近づけようとしている。ファンの方が現実と区別するため距離をとって観察者へ変化していったとも考えられる。辻は観察者の背景として「(関係性をパッケージ化して観察可能にする) ソーシャル・メディアのアーキテクチャが普及したことで、ファン文化の「観察者化」が進んだという解釈は明らかにミスリーディングである」と述べている(辻2012: 32)。しかし、ソーシャル・メディアの進化

によってファンとアイドルの距離が急激に近づきファンが現実と区別する必要が出てきたという意味でならメディアのアーキテクチャは観察者に影響を及ぼしているのではないだろうか。

今後、わちゃわちゃ感のような関係性が必要とされない時代が来るかもしれない。その時は、お互いに競い合ってパフォーマンスの質を高めるような関係性が支持されるのではないだろうか。仲間との関係性よりも実力重視になると考えられるが、日本人の性質には合わないのではないかと思う。

本稿では、主に嵐を題材としてファンとの関係性について論じた。嵐以外のジャニーズアイドルのファンも同じように観察者化しているのだろうか。女性アイドル、アニメ声優、お笑い芸人などファンとの関係に特徴や共通点はあるのだろうか。今後の課題として対象を広げて調べてみたい。

参考文献リスト

- 陳怡禎、2014、「男性アイドルの関係性に「友情」を求める女性たち——台湾におけるジャニーズ・ファンを事例として」『東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究』86: 159-173。
- 福井しほ、2019、「嵐の活動休止【会見全文・後編】大野「けじめで事務所を辞めると思っていた」松本「再開は5人でしたい」」、『AREAdot.』、2019年1月27日、(2022年1月23日取得、<https://dot.asahi.com/dot/2019012700032.html>)。
- 西条昇・木内英太・植田康孝、2016、「アイドルが生息する「現実空間」と「仮想空間」の二重構造——「キャラクター」と「偶像」の合致と乖離」『江戸川大学紀要』26: 199-258。
- 太田省一、2021、『ニッポン男性アイドル史——1960—2010年代』青弓社。
- 辻泉、2012、「「観察者化」するファン——流動化社会への適応形態として」『アド・スタディーズ』40: 28-33。